

はじめての

万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすく紹介します

vol.110

元正天皇の御製歌

この歌は、七五五年三月三日に大伴家持らが出席した宴席において、古歌の伝誦を得意としていた大原今城が詠唱した歌です。題詞には「先上天皇御製」、割注には「日本根子高瑞日清足姫天皇」という諡号があり、元正天皇が自ら作った歌（御製歌）とわかります。元正は七四八年に亡くなっており、宴席で歌われたのはその七年後となります。

元正は、父の草壁皇子と母の阿閉皇女（元明天皇）の間に生まれた長女です。七一五年に退位した母の元明のあとを継いで即位し、七二四年に甥にあたる首親王（聖武天皇）へ譲位、その後は二十年以上にわたり太上天皇として聖武を後見しました。彼女は

ほととぎす なほも鳴かなむ
本つ人 かけつつもとな 我を音し泣くも

元正天皇 卷二十(四四三七番歌)

訳 ほととぎすよ、もつと鳴いておくれ。亡き人の名をわけもなく口にして、私を泣かせるよ。

生涯を通して独身を貫き、子どもももうけませんでした。その理由として、草壁の直系男孫である聖武を後見する役割を期待されていたために、あえて未婚のまま実子を持たなかったとする説が有力です。

るように、過ぎ去った世や亡くなった人への追慕を表象する鳥でもありました。元正がほととぎすの鳴き声の中に聞いた亡き人の名とは、父母弟妹のいずれかの名だったのでしょうか。

(本文 万葉文化館 竹内亮)

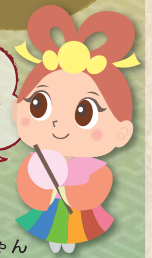
元正は、両親ときょうだいの全員に先立たれています。父の草壁は六八九年に二十八歳で、弟の文武天皇は七〇七年に二十五歳で、母の元明は七二一年に六十一歳で亡くなりました。妹の吉備内親王は長屋王に嫁ぎましたが、夫のあとを追って七二九年に自害しました。子を持たなかった元正の後半生は、全ての肉親を失った孤独の中にあつたと言えます。

ほととぎすは夏の訪れを告げる渡り鳥としてよく知られていますが、「古に恋ふらむ鳥はほととぎす」(卷二・一二番歌)という表現にもあ



万葉のちゃんぶがき

和歌や作者などに関連するものを紹介するよ!



万葉ちゃん

元正天皇陵

天平二十(七四八)年四月に亡くなった元正太上天皇は、佐保山陵に火葬、二年後の天平勝宝二(七五〇)年十月に奈保山陵へ改葬されました。長い年月の間には山陵の場所はわからなくなりましたが、幕末の慶応元(二八六五)年に奈良阪の弁財天山が元正天皇の奈保山西陵と定められ、現在に至ります。道路を挟んで東側には、母の元明天皇の奈保山東陵が並んでいます。



所 奈良市奈良阪町
宮内庁書陵部
畝傍陵墓監区事務所
☎0744-22-3338